

**学校教育目標**  
 学術や芸術文化の習得と探究を通じて、自己の能力と人格を主体的に磨き、優れた知性と品格、生涯にわたって学び続ける力を身につけることにより、多様化が進む時代の中で、人類の幸福に貢献する崇高な志と未来を切り拓く豊かな創造力を持った有為な人物の育成に努める。

**目指す学校像（ビジョン）**  
 (1) すべての学校教育活動を通じて、進路指導を行い、高い志を育む。  
 進路研究をはじめとした教育活動のあらゆる機会を通じて、確かな社会観・人生観・職業観を育成し、社会における自らの役割、身につけたい専門性を明確化し、進路意識の深化と希望進路の形成・確立に努める。  
 (2) 生徒の志を実現するために、学力の向上に取り組む。  
 基礎・基本の定着、応用力の伸長、思考力・判断力・表現力・課題解決力の育成など、発達段階に応じた、身につけるべき学力を明確に示し、きめ細かい教科教育を実践することにより、主体的で能動的な学習態度を身につけ、深い学びを追求し続ける生徒を育成する。  
 (3) 知性と品格を兼ね備えた豊かな人間性を培う。  
 生徒が有為な人物として社会に貢献し得る基礎を確立するために、クラブ活動・学校行事・HR活動・地域との交流などの活性化を図り、協働して課題を発見し、解決していく力を養う。  
 (4) 組織運営や各教育活動について、不断の改善を図る。  
 運営委員会等を中心とし、組織がより有機的、効率的に機能する学校運営の実践に努めるとともに、学校の組織や教育活動について、客観的な評価を行いそれに基づいた改善策を講じる。  
 (5) 開かれた学校づくりを目指す。  
 同窓会・PTA・異種校・地域などとの連携を推進するとともに、積極的に情報発信を行い、広く地域から理解と信頼を獲得し、協力と支援を受けられる学校づくりに努める。

領域	中期経営目標 (28年度～30年度)	短期経営目標	項目 番号	具体的方策	評価指標・評価基準（29年度）		中間 評価	期末 評価	担当部署 課題	外部評 価
					努力指標	成果指標				
めざす職業に就くために必要とされる専門性を身につけるための知識・技能・態度の育成	普通科普通生徒の高い志を育むとともに、個々の進路志望を実現する学力向上をめざした取組を組織的に深化させ、現役生の最難関国立大学・国公立大医学科の出願者数60人以上、及びセンター試験全国平均点を越える生徒の割合90%以上を実現し維持する。	最難関大学・学科志望者への進路指導について、学力向上対策会議、進路検討会議、学年進路連絡会等を通じて、学年や、教科等と十分に連携を図り生徒の希望進路の実現を図る。	1	最難関大学・学科志望者への進路指導について、学力向上対策会議、進路検討会議、学年進路連絡会等を通じて、学年や、教科等と十分に連携を図り生徒の希望進路の実現を図る。	努力指標	4 予定の会議において事前準備、事後反省を十分に行い、教科や学年と十分な連携をとることができた。	/	/	進路指導部	
					3 予定の会議が行われ、教科や学年と連携し共通認識を得ることができた。					
					2 予定の会議が行われたが、教科や学年と十分な連携をとることができなかった。					
					1 予定通り会議が行われなかった。					
					成果指標	4 最難関国立大学・国公立大医学科の現役前期出願者が70名以上であった。				
					3 最難関国立大学・国公立大医学科の現役前期出願者が60名以上であった。					
	2 最難関国立大学・国公立大医学科の現役前期出願者が50名以上であった。									
	1 最難関国立大学・国公立大医学科の現役前期出願者が50名未満であった。									
	成果指標	4 センター試験全国平均を越える生徒の割合が90%以上であった。								
	3 センター試験全国平均を越える生徒の割合が85%以上であった。									
	2 センター試験全国平均を越える生徒の割合が80%以上であった。									
	1 センター試験全国平均を越える生徒の割合が80%未満であった。									
普通科創造表現コース生徒の高い志を育むとともに、個々の進路志望を実現するための高い芸術性や技能、学力を身につけさせる組織的な取組を深化させ、3年当初の第一志望大学への出願率80%以上を実現し維持する。	生徒個々の進路志望に応じた指導の充実のために、教育環境を整備し、教員一人ひとりの指導力の充実に努める。	2	授業実践力向上を図るため、各教員の持つ学力向上を目指す授業方法論・問題作成方法を整理し、教科内で共有するべく資料化し、伝達のための研修会・研究授業等を行うと共に、その内容をシラバスに反映させる。	努力指標	4 すべての教科で資料を作成し、研修会・研究授業等を行った。	/	/	教務部		
				3 80%以上の教科で資料を作成し、研修会・研究授業等を行った。						
				2 60%以上の教科で資料を作成し、研修会・研究授業等を行った。						
				1 資料を作成し、研修会・研究授業等を行った教科が60%未満であった。						
				成果指標	4 すべての教科が、研修内容を活かした授業改善・作問改善に努め、その内容をシラバスに反映させることができた。					
				3 80%以上の教科が、研修内容を活かした授業改善・作問改善に努め、その内容をシラバスに反映させることができた。						
2 60%以上の教科が、研修内容を活かした授業改善・作問改善に努め、その内容をシラバスに反映させることができた。										
1 研修内容を活かした授業改善・作問改善に努め、その内容をシラバスに反映させることのできた教科が60%未満であった。										
創造表現コース生徒の進路実現と多様化する入試に対応した指導方法を研究し、その実践を行う。	基礎・基本の指導を充実させ、入試実技に対応した発展的な表現活動ができるよう、授業方法を検討する。	3	創造表現コース生徒の進路実現と多様化する入試に対応した指導方法を研究し、その実践を行う。	努力指標	4 各学科ごとの特別講座を実施し、入試に対応した実技の実践と指導を通して、幅広い表現力の向上を図った。	/	/	芸術科		
				3 各学科ごとの特別講座を実施し、入試に対応した実技の実践と指導を行うことができた。						
				2 各学科ごとの特別講座を実施することができた。						
				1 特別講座を実施することができなかった。						
				成果指標	4 3年当初の第一志望への出願率が80%以上であった。					
				3 3年当初の第一志望への出願率が70%以上であった。						
2 3年当初の第一志望への出願率が60%以上であった。										
1 3年当初の第一志望への出願率が60%未満であった。										
創造表現コース生徒の進路指導を組織的に推進する。	創造表現コース連絡会、学力向上対策会議、進路検討会議、学年進路連絡会等を通じて、学年や、教科等と十分に連携を図り生徒の希望進路の実現を図る。	4	創造表現コース連絡会、学力向上対策会議、進路検討会議、学年進路連絡会等を通じて、学年や、教科等と十分に連携を図り生徒の希望進路の実現を図る。	努力指標	4 予定の会議において事前準備、事後反省を十分に行い、教科や学年と十分な連携をとることができた。	/	/	進路指導部		
				3 予定の会議が行われ、教科や学年と連携し共通認識を得ることができた。						
				2 予定の会議が行われたが、十分な連携をとることができなかった。						
				1 予定通り会議が行われなかった。						
				成果指標	4 3年当初の第一志望への出願率が80%以上であった。					
				3 3年当初の第一志望への出願率が70%以上であった。						
2 3年当初の第一志望への出願率が60%以上であった。										
1 3年当初の第一志望への出願率が60%未満であった。										
社会人として必要とされる知識・技能・態度の育成	規範意識や自己管理能力の育成を図る取組を深化させ、平成27年度遅刻者数と欠席者数を平成28年度からの3年間で10%減を実現するとともに、教育活動のあらゆる場面において、思いやりや気配り、平和を願う心、環境美化など、豊かな心の醸成を意識した計画的な取組を推進し、地域の行事や諸事業、ボランティア活動に主体的に参画させることにより、その精神の深化を図る。	学校生活を送るために必要な基本的な生活習慣が確立されるように指導する。	5	始業前の登校指導および遅刻者数の掲示を継続するとともに、遅刻者については、担任・保護者と連携した指導を行い、遅刻のない生活習慣の定着を図る。	努力指標	4 すべての遅刻指導が組織的に行われ、担任や保護者と十分な共通認識を得ることができた。	/	/	生徒指導部	
					3 担任・保護者と連携し、遅刻の多い生徒に対して効果的な指導を行うことができた。					
					2 担任と連携し、遅刻の多い生徒の指導を行ったが、あまり効果的な指導とならなかった。					
					1 遅刻指導において、担任・保護者と連携とれなかった。					
					成果指標	4 遅刻者数が、前年度より7%以上減少した。				
					3 遅刻者数が、前年度より4%以上減少した。					
	2 遅刻者数が、前年度並みであった。									
	1 遅刻者数が、前年度より増加がみられた。									
	さわやか清掃など、校外清掃に主体的に取り組むことで、地域の環境美化に貢献し、環境美化に対する意識を高める。	地域の教育施設や町内会との連携を図り、地域から信頼される生徒の育成をめざす。	6	さわやか清掃など、校外清掃に主体的に取り組むことで、地域の環境美化に貢献し、環境美化に対する意識を高める。	努力指標	4 地域の方と連携をとり、校外清掃を6回以上行った。	/	/	健康環境教育部	
					3 地域の方と連携をとり、校外清掃を4回以上行った。					
					2 地域の方と連携をとり、校外清掃を2回以上行った。					
					1 地域の方と連携が十分にとれず、校外清掃が2回未満であった。					
成果指標					4 環境美化に対する生徒アンケートの肯定率が80%以上であった。					
3 環境美化に対する生徒アンケートの肯定率が70%以上であった。										
2 環境美化に対する生徒アンケートの肯定率が60%以上であった。										
1 環境美化に対する生徒アンケートの肯定率が60%未満であった。										